



ゆんたく(言語室だより)

2013年 秋号

発行 太田川病院ST室

秋も一段と深まる季節となってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
朝夕の冷え込みが厳しくなってまいりますので、くれぐれもお身体ご自愛ください。
今回は、前回号に引き続き『コミュニケーションエイド』についてのお話です。

今回のテーマ

コミュニケーションエイドについて



コミュニケーションエイドって？

前回のゆんたくでは、発声などによりコミュニケーションが難しい方々に対し、様々な機器を使用してコミュニケーションの援助を図るハイテク・コミュニケーションを紹介しました。今回は、ローテク・コミュニケーション（文字・絵・図形やシンボルなどを使用し自分の意思を相手に伝える方法）の援助方法について紹介します。これは、先端技術は不要であり、一般に普及している方法でコミュニケーションを補うという方法です。これを援助手段として用いる場合、使用する方の障害の種類、程度、運動能力などの違いにより、手足などによる選択、視線による選択があります。

どんな種類があるの？

1. Yes- No 質問

はい／いいえで答えられる質問を重ねることにより、徐々に言いたいことを絞り込むことができます。



2. 書字・描画

筆談・要約筆記を用い伝達します。

3. コミュニケーションノート

日常生活に必要な語彙を、絵や文字で項目ごとに整理したノートを伝達手段として使います。

これは、市販のものや言語聴覚士が、患者様個々に合わせ個別に作成したものを用います。

コミュニケーションノートの例



4. 文字盤

1) 五十音表の活用

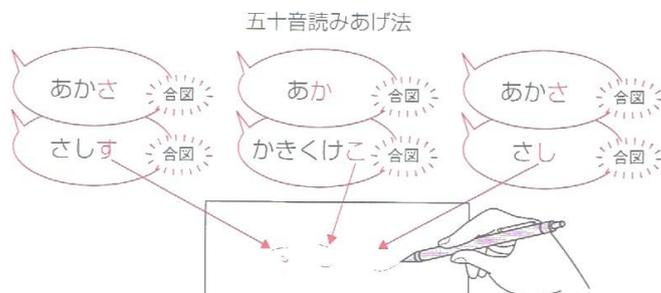
五十音表を指さして要求を伝えます。



2) 五十音読み上げ法

運動障害により指さしが困難な場合、まず行を読み上げ、次に列の文字を読み上げて特定していきます。

例) 一方が行を読み上げていき、特定の音の時にまばたき2回で合図します。その後、列も同様に行います。



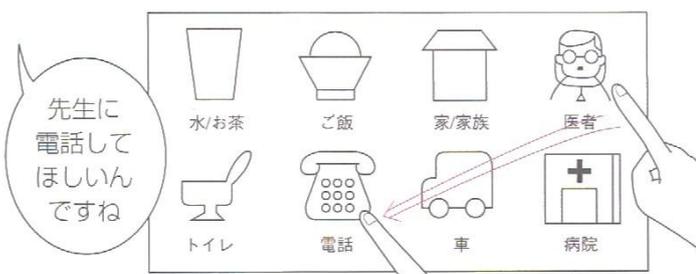
3) 透明文字盤

透明文字盤（五十音表や単語などを書いた透明の亚克力板）をコミュニケーション相手との間に置き、視線の方向で文字や単語を選択します。⇒五十音表で文字を追う場合、斜視があったり、文字と文字の間隔が十分でなかったりすると、視線の動きが読み取りにくいことがあります。



5. コミュニケーションボード

日常よく使用する単語やメッセージをまとめて書いておき、それを指さすことで要求を伝えます。



コミュニケーションボードの例



声だけがコミュニケーション手段ではありません！

コミュニケーションに障害を持つ方は、人口の5%程度おられるといわれています。表出障害を抱える方々にとって自分の意思を相手に伝える方法を確保することは生活の質を高め、活動を広げるために重要です。今回紹介したもの以外にも、まばたきや視線の利用、指さし、ジェスチャー、表情など言葉以外の表出方法は様々です。

(引用・参考文献 改訂 AAC 久保健彦編著、絵でわかる言語障害 毛束真知子)



今回のポイント！

コミュニケーション障害を持つ方の個々の難しさに対応した援助方法の選択を行うことが大切です。